

長楽寺
秀吉の播磨攻めの時に
守られた本尊がある。

浄土宗の寺院で、和銅6年(713)慈心上人の開基です。高倉天皇が中宮建礼門院の安産を念じ、丹波老の坂の地藏尊に祈願をされました。すると、いとも簡単に玉のような皇子を拾いあげたことから、平清盛に命じて、全国六十余州の国々に一体ずつ安置させたものが、本尊の「木造地藏菩薩半跏像(国重要文化財)」です。

「谷の子安地藏」として安産祈願に訪れる人が絶えません。春の桜と秋の紅葉も見事です。



秀吉の播磨攻めの時、長楽寺の伽藍は焼失してしまいましたが、住職が本尊の「木造地藏菩薩半跏像」を抱いて身を隠し、兵火から守ったといわれています。

※長楽寺は2011年9月4日の台風12号により甚大な被害を受け、本堂・阿弥陀堂等は土砂により全壊・流失してしまいました。現在は残ったお堂で法務を行い、復興に取り組んでおられます。

所在地 兵庫県加古川市志方町永室853-1
問い合わせ先 長楽寺 (TEL.079-452-2530)
交通機関 神姫バス「長楽園」
加古川駅前5番のりば

観音寺
秀吉の攻略で落城した
志方城があった。

曹洞宗の寺院で本尊は観世音菩薩です。観音寺の付近一帯は志方城跡です。城の規模は現在の観音寺の境内を本丸とし、本丸を囲む内堀の周囲に二の丸（志方小学校所在のあたり）西の丸（旧志方町役場所在のあたり）とかなりの規模の城であったようです。

この城の城主・櫛橋家は伊朝を元祖とし代々赤松氏の家臣でした。伊朝より五代の孫、櫛橋左京亮則伊は、赤松政則に仕えて大いに重んじられ、祖父の例にならって播磨作三国の財産出納の役をつとめ文明十三年（1481）志方・天神山に城を築き、明応元年（1492）この地に志方城を築きました。以来、伊家、伊定、政伊と父子四代続き、天正六年（1578）羽柴秀吉の攻略にあって落城しました。

伊定の娘、光(てる/幸圓・こうえん)は秀吉の軍師として活躍した黒田官兵衛の妻となり、結婚した翌年に嫡男が生まれました。後の福岡藩主・黒田長政です。

現在の観音寺は、志方城落城の後、天正十五年（1587）、宝岩宗珍和尚が城主の墓碑を守るために城の本丸跡に禅寺を建立したのが始まりです。



所在地 兵庫県加古川市志方町志方町720
問い合わせ先 観音寺 (TEL.079-452-2370)
交通機関 神姫バス「志方西口」
加古川駅前5番のりば/宝殿駅北口

太閤岩
秀吉が志方城を攻めたとき
ここに本陣を置いた。

加古川市西神吉町辻の北側の岩山にある岩。秀吉が志方城を攻めた時、ここに本陣を置き、この岩に腰をおろして軍兵の采配をとっていたと言い伝えられています。この太閤岩からの眺望は素晴らしく、高砂の海、加古川全域、明石海峡大橋や淡路島、そして志方町方面を一望できます。



所在地 兵庫県加古川市西神吉町辻
問い合わせ先 加古川観光協会 (TEL.079-424-2170)
交通機関 JR宝殿駅からコミュニティバス・かこタクシーで「辻」下車

志方町特産品

加古川和牛

JA兵庫南や加古川市などが2004年に創設した牛肉の新ブランド。県内で生まれた但馬牛を、市内の農家が自家配合飼料と加古川の伏流水を使用し愛情こめて育てました。肉質や霜降りの程度など、厳しい基準に合格した安全で安心しかも良質なお肉です。ステーキやすき焼きに最適です！



志方牛

おいしい牛肉をPRするため2011年に新たに創設された新ブランド「志方牛」。加古川市志方町にある加古川食肉センターで処理し、加古川食肉地方卸売市場で売買された生後20～60ヶ月の牛です。衛生的に処理され、安全・安心！うまい！高品質！リーズナブル志方牛を是非ご賞味あれ！



くつした

1886年、上海から持ち帰った手回しのくつした編立機をきっかけに、くつした製造業が芽生えました。現在では、奈良県、東京都とともに日本三大産地に発展。加古川市の代表的な地場産業になっています。



鹿児の華米

加古川市北部の志方町高畑地区において、土づくりのために有機堆肥を使用し、化学肥料の使用をできるだけ少なくした方法で栽培。地元生産者が丹精をこめて育てたお米です。



志方いちじく

志方町に西地区で水田転作作物として組織的に栽培しているいちじく。平成18年には兵庫県認証食品取得をしました。朝早くから収穫、完熟いちじくを近隣のスーパーで販売しています。



野尻のそば

志方町は山に囲まれ昼と夜の温度差が大きく、ソバの栽培に適していることから、1999年から野尻営農研究部会が休耕田を利用しソバの栽培を始め、兵庫県認証食品、ひょうご安心ブランドに認証されています。8月中旬に約100アールの圃場に播種し、10月には、白い花が道行く人の目を楽しませています。収穫されたソバは、JA兵庫南農産物直売所「ふぁ～みんSHOP」で販売されるほか、ソバ打ち体験に使用されています。



黒田官兵衛の妻 光姫のふるさと

志方町

見どころマップ

戦国の世で変わらぬ愛を貫いた

黒田官兵衛と光

官兵衛のただ一人の妻で、才徳兼備であったとされる光は、加古川市志方町にあった志方城が実家(城主・櫛橋伊定の娘)です。志方城跡は現在では、観音寺として風情を残しています。熱心な浄土宗信者で円応寺(福岡)などの寺院を建立しました。1627年筑前国福岡において亡くなり、墓は報土寺(京都)、円応寺、崇福寺(福岡)にあります。



てるひめちゃん

かんべえくん



てる 志方光姫の会

平成26年NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映にあたり、官兵衛の妻「光(てる)」のふるさと志方を元気にするため、地元有志で結成されたのが「志方光姫の会」です。

安楽寺

櫛橋氏によって再建された寺

城山（中道子山）のふもとにある浄土宗の寺院で、本尊は阿弥陀如来です。もとは真言宗の寺院で、弘法大師の弟子、真紹上人の開山で、山頂に無量寿院を創建した（811）のに始まり、本光山中道寺と改号し、長い間山頂にありましたが、赤松氏が城を築く際、山麓に移されました（1380）。赤松氏の没落後、城主櫛橋（くしはし）氏によって浄土宗寺院として再建されました。

白い塀が長く続いているのが印象的で、春には見事な桜も楽しめます。

所在地 兵庫県加古川市志方町細工所631
問い合わせ先 安楽寺 (TEL.079-452-0328)
交通機関 神姫バス「門前」
加古川駅前5番のりば

志方の城山

中道子山(ちゅうどうじさん)城、別名赤松城の城跡。

志方町の東の端に位置し、中世の城跡があります。室町時代に赤松一族が築き、約170年間続いた東播磨で有数の城跡です。

軍用金埋蔵にまつわる歌や、敵の侵入を防ぐ目的で山腹に竹の皮を敷き詰めたが火を放たれ、兵糧米をまいて鎮火に努めたものの、落城に至ったという伝説が残っています。

登山道は整備され、頂上からは北に七ッ池、東に権現ダム、西に高御位山、南は播磨灘まで見渡せる絶景です。



所在地 兵庫県加古川市志方町岡・広尾
問い合わせ先 加古川観光協会 (TEL.079-424-2170)
交通機関 神姫バス「城山登山口」
加古川駅前5番のりば

円照寺

秀吉が島津との戦いで使用した銅鐘が残る。

花の寺として知られ、3月から11月にかけてクリスマスローズ、ユキヤナギ、椿、ライラック、アジサイ、ノウゼンカズラ、酔芙蓉などさまざまな花が咲き乱れます。境内の梵鐘は、豊臣秀吉が中国平定の際で、山口県の上野八幡宮の鐘を陣鐘として使い、帰京の際にこの地に置いていったものといわれています。

「周防国富田保 上野八幡宮 明応七年…」の銘が刻まれており、市指定文化財となっています。

所在地 兵庫県加古川市志方町広尾1029
問い合わせ先 円照寺 (TEL.079-452-2067)
交通機関 神姫バス「広尾西」
加古川駅前5番のりば



「黒田官兵衛と光」ホームページ



←加古川観光協会ホームページに「黒田官兵衛と光」の特設ページが開設されています。官兵衛と光ゆかりの地の紹介や関連情報を配信しています。

<http://kanbee.kako-navi.jp/>

